

1. 会 議 名 総務文教委員会
2. 日 時 平成26年3月18日(火) 16時12分開会
16時37分閉会
3. 場 所 第1委員会室
4. 出席委員 牟田学委員長、出口徹裕副委員長、仮屋園一徳委員、
牛之濱由美委員、岩崎健二委員、木下孝行委員、
山田勝委員、濱之上大成委員
5. 事務局職員 議事係 牟田 昇
6. 説 明 員
- ・ 総務課
課 長 上野 正順 君
課長補佐 中野 貴文 君
 - ・ 市民環境課
課 長 馬見塚啓一 君
課長補佐 牛濱 良彦 君
係 長 平田寿美子 君
7. 会議に付した事件
・ 所管事務調査
8. 議事の経過概要
別紙のとおり

審査の経過概要

総務文教委員長(牟田学委員)

ただいまから総務文教委員会を開会します。

本日は、本委員会の所管事務調査を議題といたします。

先の委員会では、所管事務調査を終了すると決定したところですが、阿久根市議会基本条例に基づき、また、その調査を補完するため、所管課と意見交換を行うものであります。

ここで、所管課に出席を求め、意見交換を行うことに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

御異議なしと認め、そのように決しました。

それでは、初めに、所管事務調査事項であります「行政改革について」を議題とし、調査に入ります。

所管課の出席をお願いします。

(総務・市民環境入室)

総務課及び市民環境課に出席いただきました。

これより、意見交換を行います。

各委員から御意見または質疑等お願いいたします。

木下孝行委員

質疑はありません。私たちの所管調査で大野城市に行ってみりました。非常にいい窓口サービスを行っております。しかし、阿久根市とは人口規模及び人口構成等々含め、財源等も全然違うような状況でありますけども、今回、執行部が窓口の改善をするということで、一步前に進むということで、ぜひそのように進めていただきたいということをお願いして、私は以上です。

総務文教委員長(牟田学委員)

ほかに。

牛之濱由美委員

特段、質問等は私もないんですけども、今回大野城市に行かせていただいて、行政改革ということで窓口業務を視察させていただいた中でですね、やはり一番感銘を受けたのが子供の、小さいお子さんの遊べる場所、スペースを設けてあったということがやっぱり一番のこれからの子育ての時代には必要、阿久根にもベビーベッドは置いてありますけども、子供がちょっと遊べる、ほんと角っこにありました。それがまたすごくいい雰囲気でしたので、ぜひそういうところもまた取り入れていただければなというのが一番の私の思いでした。

総務文教委員長(牟田学委員)

ほかに。

出口徹裕委員

議会の中でも牟田委員長のほうからもありましたけれども、来てくださるといいますか、用事のある方ですね。そういったような方を率先して、どちらかという、私どもが所管調査で行きましたところ、立っただけでお客様どうされましたという形で声をかけて来られたと。それで言われたのが、最初、お客様という言葉がついて来る。そういったところで一般企業の方が入られてるとということでそういったような呼び方が定着しつつあるということでした。やはりものすごく気持ちがいいものですね、最初の気持ちがいいと多少、語弊はあるかもしれないですけど、待たされても、それは機嫌が悪くて待つのと、気分よく待つとは違いますから、そこらの配慮というのもですね、一つのお金をもらってやっぱり行政の運営もしてるわけですから、取り組みもですね、ぜひやっていただけたらなと思いました。以上です。

山田勝委員

今、大野城市のことをですね、思い出してみれば、ほんとうに3人言われましたけどね、お客様、きょうはどんなご用ですかとかと言われてみればですね、非常に気持ちがよかったですよ。ですから、課長のことですからちゃんとした指導をされるから安心はしてるんですけどね。ただ、そういう意味でどういう結果になるのかという楽しみにしておりますので、積極的に取り組んでください。

それとですね、予算の質疑の中で窓口の対応する職員を市民課のほうは1人ふやす、それから税務課のほうはそのままちゅうことでしたよね。そのままということでした。その付近をね、逆に総務課長もいらっしゃるので、何というんですかね。こちらは1人になって、こちらは4人になってというふうにしたほうがより効率的じゃないのかというふうに思うんですよ。だから、お互いに職員を引っ張りっこしないで、今後、2対5が4対1になるかどうかわからんけれども、その付近はやはり臨機応変に取り組んでいって欲しいと思います。

総務文教委員長（牟田学委員）

意見交換ですので、執行部のほうからも。今の山田委員の意見についてでも。

上野総務課長

山田委員のおっしゃるとおりですね、当初は私どもも嘱託職員の数については総体数については変わらないというつもりで最初論議をしていったんですけども、少し市民環境課長からも話しがあつたところでしたけれども、窓口の業務をこなしながら、一方では固定資産にかかわる内部の業務についても業務をしていたと。その比率についてはかなりのウエイトをもって内容の部分をこなしていたというようなこともあってですね、どうしても単純に二人のうちの一人が抜けるということには、なかなか業務を運営していくうえでは支障が出てくるんじゃないかというようなことがありましてですね、今回は確かに、当初はそういうふうに私どもも進めていたんですけども、業務に支障等が出てくることもこれは見逃すことはできないというようなことですね、今回は確かに2のままとなっていたのは確かです。今後はそういう業務の推移なんかも見ながらですね、当然、そのことについては削減、改善されるべきところについては今後もまた見落とさないようにですね、対応せないかなとは思っているところです。

山田勝委員

今ね、総務課長の説明を受けて、私はある部分実は安心したんです。というのはね、税務課の職員は窓口業務よりもプラスアルファ、だいぶ中の部分までちゃんとしてると、仕事してるので、今回はせせないんだという話しですよ。だから、私がきょう総括質疑で言ったようにですね、もっともっと臨時の職員、嘱託職員ができる仕事があると思うので、そういうのはね、ばんばんやっぱり嘱託職員、臨時職員にやらせることが、市長が言われる職員が足りないとか、もう目いっぱいですよって、仕事がふえたですよということの改善にもなると思うのでね、やはり嘱託職員、臨時職員でもできる仕事は、市民課、税務課に限らずどの課でも私はやらしていいというふうに思うのでね、その付近は前向きに総務課長、取り組んで欲しいと思いますよ。

馬見塚市民環境課長

私のほうもですね、税務課と、この件については税務課は2名の嘱託職員が欲しいということで、うちは4名の嘱託職員が欲しいということで要望して、総務課と税務課と合わせながら協議をしまして、最終的には3名しかいただけなかったですが、私も納得したうえで了解をして、今回3名ということでした。それにつきましてはですね、今、委員の方々がおっしゃる窓口において、フロアマネジャーといった位置づけの方が欲しいというのもありましたし、また、年金についてスペシャリストを育てたいという気持ちもございました。すべて年金関係についてですね、国、県と十分熟知した職員を嘱託職員で育てたいというのがありましたので4名をしたんですが、年金関係についてはまた職員も熟知するというよう

なことで、3名にしました。しかしながら、繁忙期につきましては案内はできない可能性もございますが、通常ときはですね、皆さんが御提案いただいたとおり、フロアーのほうに出て行って、何らかの形で、お客様きょうはなんでしょうかとということで、南4課の案内ができるような体制を整えていこうと考えております。立ってやるか、あそこにカウンターを置くかというのは今から総務課と協議をしながらいきたいと思うんですが、できるだけ不安のない、不安をとり除く窓口に来られた方の業務をしていきたいと思っております。これがベストではございませんので、まだ、入口でございますので、徐々に皆さん方の御意見も聞きながらですね、改革ができれば。それとまた、予算が伴うものも当然これから出てくると思っています。その場合はそれに対応してお願いをしていきたいと思っております。

出口徹裕委員

たぶん阿久根市役所内にもあると思うんですけど、案内する中で過去の分の問い合わせ分とか、受け答えとかですね、マニュアルをつくってあったんですよ。それで、そういったような問い合わせが多い場合の答えというのを準備しておいて、窓口の方にそれをマニュアルとして置いておくと。それ以上答えられないものについては職員のほうに回すというような形をとってスムーズに流れていたようですので、そこらも随時更新していけば、それは職員の方の負担の軽減にもつながると思っておりますので、それについてもぜひつくって取り組んでいただけたらなと思ったしだいでした。

総務文教委員長（牟田学委員）

ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

よろしいですか。

なければ「行政改革について」の意見交換を終結いたします。

（総務課退室）

次に、「ごみ問題・リサイクルについて」を議題とします。

各委員から御意見または質疑等お願いいたします。

ありませんか。

出口徹裕委員

一般質問の中でも申し上げたんですけど、ごみといろいろなものを活用してエネルギー等もつくりだしていたといったような状態で、一つ報告的なものになりますけれども、その中で一ついいなと思ったのは、肥料等つくってですね、それらを農業されてる方に、確か無償だったかと思っております、散布は別でしたけれども。そういったような形でですね、配って、またその農作物のほうもいい売れ行きというか、そういったようなものをしていると。総合的にエネルギー、それから農作物につながっているのがですね、ぜひ、すぐにあれはできるものとは思えませんが、前向きな形でですね、何らかの案的なものを今後何かのきっかけでつくってってもらえたらというのが私の思いでした。

総務文教委員長（牟田学委員）

ほかにありませんか。

山田勝委員

あそこを見て僕は思ってるんですけどね、燃えるごみの中の60%ぐらいが生ごみでしょう。あの生ごみをどうかしたらいいというのはわかっているのに、なかなか難しいのはですね、例えば、かってJAいずみが江内にたい肥センターをつくるときにですね、たい肥センターの牛ふんとか豚にですね、生ごみを混ぜればものすごくいい発酵をするんですよと言われるんですけどね。いいんですよ、ものすごくいいんですよって言うんですけど、ここが不思議やっとな。農林省が進める事業とな、環境省が進める事業とは事業がかみ合わないんですからね、かみ合わなかったということがあったんですよ。ところが、私の知ってるのが、JA三笠がですね、たい肥センターをつくったときに、生ごみを入れればものすごくよく発酵していいたい肥ができるんですけどねという話しを実はしたことがあるんですよ。だから、何

らかの形でですね、委託事業で阿久根市が委託するというような形で生ごみの、阿久根市が直営すれば一番いいんですけどね。直営するところまでは行かなくても、やはり何かの形で生ごみを処理して、そして出口委員が言ったようにたい肥をですね、たい肥というよりも液肥を、簡単なんですよ。できた液肥にですね、それを成分を見て、それに不足分を加えればいいわけですからね。そして散布手数料がですね、反当1千円。これはね、農業するほうからすればね、ものすごくいいですよ。阿久根市のとすればあそこは一つの小さなまちですからね、農村ですから、私はこんなね、自然なリサイクルのまちがまだ日本にあったんだと実は思いましたよ。だから、そういう意味ではね、また違った形で一緒に取り組んで欲しいなと思って帰って来ました。

馬見塚市民環境課長

確かにですね、昨年、12月議会でしょうか。市長のほうも生ごみについては中面議員のほうにモデル事業を取り組みたいといった旨の、時期はおっしゃられてないんですが、発言がありました。それに向けてですね、我々もすぐ生ごみのたい肥化について動きだしまして、実際に新年度予算、今回のにも計上したんですが、同時期にですね、国庫補助事業で新規事業の募集がありまして、それに申し込んだらどうかということで、新年度事業からはずして、今申請中です。その結果が出るのが4月の1日か2日で採択をされます。採択がもしあったらですね、すぐというか、6月議会になるかもしれませんし、臨時議会になるかもしれませんが、お願いをして取り組みたいと思っています。全額国庫補助事業ですので、採択ができれば市の一財を使わないでモデル事業ができるということになりますので、それをしているところです。また、合わせてですね、民間のほうもそういう動きがありますので、できれば合わせて進めていければ、今年度というか、26年度中には一定のものがいくと思います。それと広域のほうでもですね、バイオマスの方向でも検討に入っています。ただ、今単純に燃やすだけというのじゃなくて、バイオマスの検討をしてくれということで、広域の新年度予算にも調査研究費が盛り込まれております。だから、山田委員が言われるようにそういった方向でですね、ただ燃やすんじゃないで、たい肥化、熱エネルギーといった形で検討がなされていくと思います。単純に燃やすだけという時代ではないとは思っています。

山田勝委員

私は肥料になることもだけどね、合わせて養殖業者のエサにもなるような気がするんですよ。だから、いろんな角度でね、いろんな角度であれば研究の余地があるなと思って帰って来ました。ただ、全国的に非常に症例の少ない事業ですもんね。全国的に症例の少ない事業。でも、あれはやはりね、環境型、環境型ないかですよ、やっぱり環境をよくする。ほんとに思いましたよ、大木町に行って。農家の付近を見てですね、まだこんな農村があったのかと思ってんですけどね。頑張ってください。

総務文教委員長（牟田学委員）

大木町の説明でも、これから先は燃やすだけじゃだめだと。ほかにいろいろ考えないといけないと。今のバイオの件についてもですね。そういう説明がありました。

山田勝委員

それと、私は大木町の職員にこんな質問をしたんですよ、話しをしたんですよ。実は生ごみもだけど、私のところで困ってるのはですね、実は油、植物油及び豚、牛のですね、料理をしますとね、ものすごい油が出るんですよ。それは今はですね、油は別に、浄化槽に入れられませんからね、浄化できんから、今はすくい出して燃えるごみに入れるんですよ。でもこれは実はものすごくもったいないと思っていますと言ったら、彼は、それはですね、ものすごくエネルギーがありますからね、こういう装置の中に入ればものすごく効率がいいんですよ。だれかそういう業者がいませんかねって言って、私が廃油をやっている業者に言ったけど、それはそういう植物油はだけど動物の油は扱ってないということでしたけどね。だから今はどこもですよ、どこの飲食店もですね、廃油は引き取り手がありますよ。でも豚とか牛とかのね、油はね、引き取り手はないんですよ。あれば全部浄化槽じゃなくて燃える

ごみにいくんですよね。

馬見塚市民環境課長

肥料の中には入れられないんですか。

山田勝委員

入れられると思いますよ。

馬見塚市民環境課長

今、民間のほうを検討しているのはですね、食品会社から出る食品残渣、産廃も含めたのを検討しているんですよ。だから、それにも入れられるんじゃないかと思います。上野食品から出てくるたけのこの皮とか、泰平食品から出るぼんたん、それから各塩干のところから出てくる内蔵等も含めて処分ができるという施設は今検討しているところです。それについて、油が入って肥料になるかという話はまた研究をさせてみたいと思います。

山田勝委員

だからね、私のところにマエハマというところがあるんですけどね、マエハマは毎日市内のね、魚の残渣をずっと集めて回りますよ。全部集めて回ってね、それはブリのえさにいくんですよ、ブリのえさに。だからいろんな人がおります。いろんな人がいるけど、だからそういう中でそれもひっくるめてね、阿久根市から出るそういうどうしようもない品物を処理できる施設をね、ぜひつくって欲しいと。

仮屋園一徳議員

志布志市と大木町の違いは、志布志は最終処分場を持ってないということで、生ごみも含めてとにかくごみの減量化ということでやっています。同じようなことなんですけど、大木町についてはとにかくごみをゼロにするんだというような形で、何でかという人口も違いますし、少ないところで。とにかく全部をリサイクルにすると。主はたい肥化だったんですけど。そういうことですね、今、油の話も出ましたけど、最初から油、生ごみを振り分けていくと、とにかく全部を振り分けて全部リサイクル化するんだというのが大木町だったんですけど、やはり最終的にはどこでも出るように、市民の方がごみの分別ですね、それにいかに協力してもらうかというのが何を進めるにも最大の課題だと思いますので、その辺をみんなですべてどういうふうに進めていくかが私は一番の問題かなと思っています。

総務文教委員長（牟田学委員）

いいですか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

なければ、「ごみ問題・リサイクルについて」の意見交換を終結いたします。ありがとうございました。

(市民環境課退室)

所管課との意見交換が終了しました。

ここで、お諮りいたします。

以上で、本委員会の所管事務調査を終了することとし、ただいま出された意見等を踏まえた報告については、委員長に一任されたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

(異議なし)

御異議なしと認めます。

よってそのように決しました。

以上で、総務文教委員会を散会いたします。

お疲れ様でした。

(閉 会 16時37分)

総務文教委員会委員長 牟 田 学